

《NEWS》

■印西市油免遺跡(第2地点)の出土遺物を展示

印西市の船穂コミュニティセンターの開館にあわせて、施設建設前に当センターが発掘調査を実施した油免遺跡(第2地点)の出土遺物や写真パネルが4月16日(水)～30日(水)まで展示されました。

■成田市中軸第1遺跡E地点土坑出土品が重要文化財に

平成15年3月20日付けで、中軸第1遺跡E地点土坑出土品が国の重要文化財に指定されました。本遺跡は当センターが発掘調査を行い、縄文時代前期(今から約5500年前)の集落を検出し、中央部に250基程のお墓が発見されています。中からは人間の顔を写実的に表現した人頭形土製品や赤く塗られた土器、装身具である耳飾や垂飾などがみつかり、当時の習俗や葬送儀礼を知る上で貴重な資料です。

重要文化財に指定された遺物は、千葉県立房総風土記の丘で展示・保管されますので、また多くの人々の注目を集めることでしょう。



「人頭形土製品出土状況」

《ご案内》

■第7回遺跡発表会の開催

7月19日(土)午後1時(受付12時30分)から、佐倉市中央公民館大ホールにて、第7回遺跡発表会を開催します。

特別講演：国立歴史民俗博物館教授 白石太一郎
「竜角寺・公津原古墳群と印波国造」

調査成果報告：

- 佐倉市井野長割遺跡(第7次)(縄文時代後・晩期)
- 成田市台方下平Ⅱ遺跡(古墳～奈良・平安時代)
- 佐倉市江原谷遺跡(縄文中期～奈良・平安時代)

併せて、当センターの考古資料展示室において、今回発表する遺跡の出土遺物を展示する「最新考古資料展」を7月14日(月)から開催いたします。

どちらも無料で参加できますので、ぜひ一度ご来場ください。

■企画展「印旛の弥生文化」開催中

考古資料展示室で開催しております「印旛の弥生文化ー2000年前の記憶を紐とくー」展は、弥生時代における印旛沼周辺の特色ある文化を豊富な遺物と写真を用いて、わかりやすく紹介しており、多くの来館者にご好評いただいております。6月30日(月)までの展示ですのでお早めに見学を。

《発掘中の遺跡》
6～9月予定

がんばってます!

《成田市》

- 台方下平Ⅰ遺跡(弥生～奈良・平安時代)
- 南三里塚宮原第1遺跡(旧石器時代)
- 南囲護台遺跡(第3地点)(奈良・平安時代)
- 大室仲妻遺跡(古墳～近世)
- 駒井野板橋遺跡(旧石器～縄文時代)

《佐倉市》

- 内田端山越遺跡(奈良・平安時代)
- 大蛇中芝遺跡(古墳～近世)
- 《富里市》
- 中沢野馬木戸遺跡(奈良・平安時代)

《室内作業》

こつちもやっています!

《本部統合事務所》

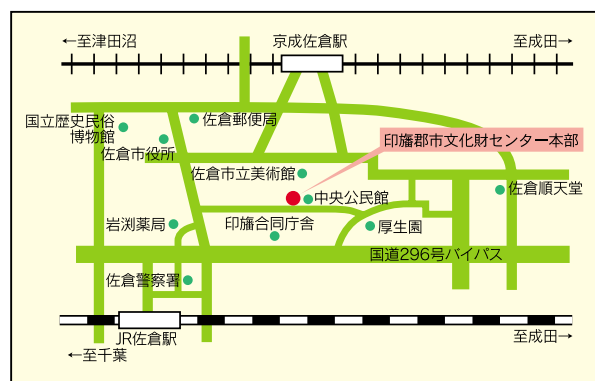
- 佐倉市錦木町198-3 TEL 043-484-0133
- 南三里塚宮原第1遺跡(成田市、旧石器時代)
- 南囲護台遺跡(第3地点)(成田市、奈良・平安時代)
- 大室仲妻遺跡(成田市、古墳～近世)
- 井野長割遺跡(第4次)(佐倉市、縄文時代)
- 大蛇中芝遺跡(佐倉市、古墳～近世)
- 南作遺跡(四街道市、縄文～奈良・平安時代)
- 権現堂遺跡(四街道市、弥生～中世)
- 浮矢遺跡Ⅰ・Ⅱ(四街道市、奈良・平安～中世)
- 油免遺跡(第2地点)(印西市、古墳～奈良・平安時代)
- 滝台遺跡(富里市、奈良・平安時代)
- 瀧水寺裏遺跡(本埜村、旧石器～縄文時代)

《佐倉南統合調査室》

- 佐倉市岩富町538-1 TEL 043-498-0765
- 井野長割遺跡(第5次)(佐倉市、縄文時代)
- 宮内井戸作遺跡(佐倉市、縄文時代)

《おしらせ》

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



佐倉市白井屋敷跡(第2次)



6号方形周溝墓完掘状況



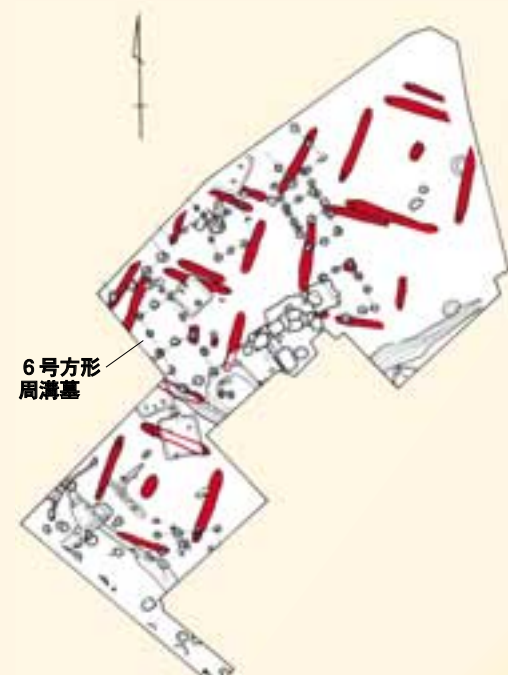
6号方形周溝墓出土遺物
(左:管玉 右:装飾品)

白井屋敷跡遺跡は、印旛沼の南岸、鹿島川と手繰川に挟まれた標高約30mの台地上に位置しています。平成5年度にも発掘調査が行なわれており、今回の調査が2回目にあたります。弥生時代の竪穴住居跡1軒、方形周溝墓8基、奈良・平安時代の竪穴住居跡8軒、中近世の土坑約80基などが検出されました。

方形周溝墓というのは、弥生時代から古墳時代初頭にかけて造られたお墓です。四角く溝がめぐっていることからこの名が付けられています。一般的に時期の古いものは四隅が途切れ、新しくなると溝が全周する傾向にあるといわれています。白井屋敷跡遺跡の方形周溝墓はどれも四隅の切れたものでした。また溝に囲まれた中央付近には埋葬施設が造られ、現在では確認できませんが古墳のように盛り土も行なわれていました。

今回の調査では方形周溝墓が整然と並んで検出されました。ほとんどの方形周溝墓の軸が同一方向であること、また周溝どうしが切りあいを持たないことから、墓域の形成にかなり厳密な約束事があったのかもしれない。

今回紹介するのは、6号方形周溝墓です。1辺8mの溝に囲まれた中央付近から大小2基の埋葬施設が検出されました。大きい方の埋葬施設からは緑色凝灰岩製の管玉が、小さい方からは滑石製の装飾品が出土しました。管玉は古墳時代のものに比べて、非常に小さいものですが、精巧なつくりです。また装飾品も両端に孔がつけられていることから、腕飾りか首飾りにされていたのでしょうか。どちらも埋葬者に対する副葬品と考えられます。残念ながら、どのような人が葬られていたかは不明ですが、ムラの中の有力な人物であったのではないかと考えられます。



白井屋敷跡遺跡(第2次)遺構配置図(1:400)

よ し み い な り や ま 佐倉市吉見稻荷山遺跡 (第5次)

— 印旛沼で魚釣り!? 4千8百年前の漁師ムラ発見! —

遺跡は、佐倉市生谷字横山の標高約30mの台地上にあります。生谷交差点の道路拡幅工事に伴い、平成13年11月に調査を行いました。その結果、縄文時代中期後半（今からおよそ4千8百年前）の竪穴住居跡1軒のほか、木の実類の貯蔵穴が多数見つかりました。出土遺物で注目されるのは、当時網漁に使用されたとされる大量の錘です。156.7㎡の調査区から438点が出土し、そのうち292点が住居跡床面の一ヶ所にまとまっています。

錘は網にくくり付けるために土器の破片に切り込みを施したもので、一般に「土器片錘」と呼ばれています。壊れた土器を再利用することから、縄文時代のリサイクル事情の一端がうかがえます。投網などの網に装着して、河川や湖沼での魚捕りに使用されたと考えられます。おそらく、本遺跡の縄文人はムラの西側を流れる手繰川から舟を繰り出して、印旛沼一帯でコイやフナ、ウナギなどを捕っていたのでしょう。

おもしろいことに、錘をよく見ると切り込みが片側にしかないものやまったくないものも混ざって

います。これらを未製品とみなすと、この住居が錘の製作跡と考えられます。一方で、製品と未製品が混ざって出土したこと、製品に程度の差はあるものの使用による磨耗が認められること、錘に加工された後焼成を受けたものが多く認められることから、未製品や使用品が他所で焼かれた後、まとめて一ヶ所に廃棄されたとも考えられます。では、なぜそうしたのでしょうか。その理由として、①漁労に従事していた人たちがムラを立ち去る際に、それまでの漁で得た恵みや漁の無事を感謝する意味を込めて網や錘を焼く儀式をおこなった。②漁で中心的な役割を果たしていたリーダーが不慮の事故や病気で亡くなった際に、追悼や穢れの忌避のための儀式の一環として焼かれた。このようなことが考えられないでしょうか。



土器片錘出土状況 (画面中央)



土器片錘出土状況 (拡大)



土器片錘集合 (整理作業後、屋外に並べて撮影)



土器片錘集合拡大(中央は大きさの比較に置いた百円玉)



住居跡全景 (中央の窪みは住居より古い土坑)